

米沢寺町まちづくりワークショップの実践

地域の景観まちづくりを考える、市民協働の取り組み手法について

Report on citizen's participation in a landscape planning
of a temple town in Yonezawa-city

志村 直愛 | Naoyoshi SHIMURA

Higashi-teramachi is located in the center of castle town, Yonezawa, in Yamagata Pref. There are 17 temples along the main street of 1km in length and sequence of the temples creates historical landscape. The oldest temple was founded in 1226, Kamakura era.

According to the Yonezawa city landscape plan, devised in 2010, the WS meetings were held once a month for a half-year. Remarkable feature of this program is a collaboration of priests and inhabitants in the town. They both have different situation and way of thinking. Finding differences of both situation and promoting mutual understanding were the most important start point to make meetings successful. Step-by-step program was prepared by Shimura laboratory of the Tohoku University of fine art and design, to make common awareness of the issues. Firstly evaluated historical landscape of temple town, and talked over examination of town design, role allotment, priority, and investigated directionality of the future citizen-based town planning. They made a proposal to make sequences of historical scenery fence and exterior of the temples, make community events more active, and to place guide-signs and maps for sightseeing tourists.

This meeting was success in brought up consciousness to cooperate together without depending on administration.

Keywords:

米沢市、城下町、寺町、景観まちづくり、市民協働、ワークショップ手法

1. はじめに

本稿は、置賜の米沢市内、東寺町地区に於いて平成23年度に実施された地域参画形のまちづくり検討の支援事業に関する報告である。この事業は、同市の景観施策の一環として、地域からの要請に対して都市計画課が行なう景観まちづくりのメニューで、地域住民、寺院関係者らで構成された協議会が主催し、市が支援する形式を探り、ワークショップの企画進行、成果分析などのとりまとめを本学建築・環境デザイン学科、志村研究室が受託したものである。

2. 米沢市東寺町地区について

米沢城は、鎌倉時代中期の創建と伝えられる平城であるが、近世江戸時代、米沢藩上杉時代に現在の都市基盤となる城下町の骨格を完成させている。城跡である松が岬公園を中心に、市内の北、南、東に3つの寺町が配置されたが、中でも市内大町と相生町の境界付近に当たる東寺町は、通り沿い南北約1km足らずの間に17ヶ寺もの寺院が集中する地区で、1226年創建という一帯最古の善勝寺は、米沢城創建当初からの歴史を伝えている。

平成22年度にまとめられた米沢市景観計画では、景観形成地域の中の地区別景観形成方針として「東寺町・北寺町周辺地区」が想定されており、寺院等の資源を活かした、歴史や文化が薫る景観の形成を図るという方針を位置づけ、具体的には、 1. 古くから残された寺院のまちなみの保全 2. 寺町としてのまちなみの景観形成 3. 寺社林の保全と沿道の緑化推進、の3点を課題として挙げてい

る。最上川の西側、駅と中心市街地の中間に位置する閑静な環境が特徴である[図表1]。

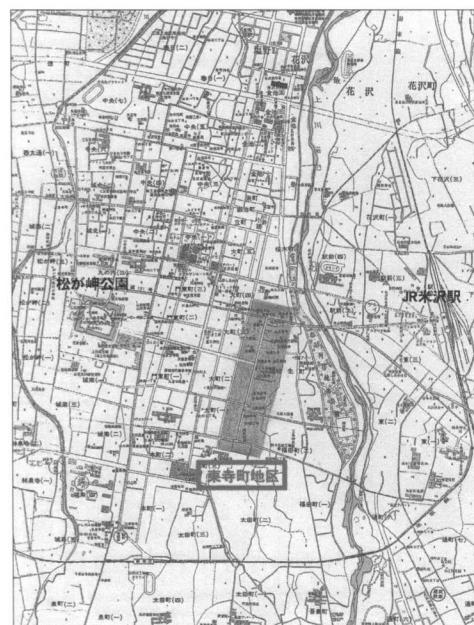
3. ワークショップの目的

米沢市では、建設部都市計画課景観係を窓口として、平成10年に米沢市景観形成指針を、また、景観法施行後の平成22年には市の景観計画をまとめ、県内では比較的早くから景観施策に取り組んできた経緯がある。これにより、市内の米沢駅周辺地区、松が岬公園周辺地区、上杉家廟所周辺地区の3つの景観形成重点地区を指定し、景観形成を進めているが、それ以外にも地元住民を中心として景観まちづくりに熱心な場所に対して、景観まちづくりを積極的に支援するメニューを持っている。今回のワークショップはこの一環として位置づけられる。

寺町は字の如く、城下町である米沢市の中でも寺社地が集まる一帯として南北に延びる通りに沿って寺院が集中している地区である。地域では、歴史ある寺院が並ぶまちなみを観光に資することも視野に入れつつ、また日常生活の場としても、かつてあった寺院と檀家、あるいは周辺住民とのコミュニケーションの希薄化を指摘する声を受け、美しい地域のまちづくりや、地域内でのコミュニティのあり方についての検討の必要性が高まりつつあった。これを受け、

沿道の寺院の住職や檀家、寺院周辺に分布する住宅地の町内会関係者、商工会議所などの市民が集まり、「寺町を活かしたまちづくり協議会」を立ち上げている。平成22年度内に、地域の特徴を活かした景観づくりについての勉強会を行い、年度末には、これを受けたワークショップとして、協議会の呼びかけで会員の他、地元住民も交えて、今後のまちづくりに向けて、「地区の問題・課題について考えましょう」と意見交換、収集の場を設けている。これを受けた形で翌23年度に、具体的な地域での景観まちづくりの方向性を探る取り組みとして、4回に分けたワークショップ形式による地元の意見集約と、提案の取りまとめによる検討を重ね、今後の景観づくりの方向性を見定めることになった[図表2]。従って、このワークショップに求められた目的は、

- 1) 寺町地域の景観、まちづくり上の魅力や問題点の把握と解決策の模索
- ・前年度開催の先行ワークショップで抽出された成果では、口頭で提示された問題点が列挙されており、それぞれが具体的な場所に落ちておらず共有しにくいこと、また問題点のみで、地域の魅力といったポジティブな評価点が欠けているため、地元の景観まちづくり推進のモチベーション高揚のためにもよい点の評価が必要であると判断される。
- 2) 地元住民のまちづくり課題の共有と、まちづくり意識の醸成



[図表1] 東寺町位置図。東西250m南北1kmの細長い一角。

**まちづくりワークショップ
寺町を歩こう (御案内)**

寺町を活かしたまちづくり協議会

寺院が連たん集積している歴史的市街地は、貴重な財産であることから、まちの新たな魅力として光を当て、街並みや住環境などの整備保全を図り、地域の方々や来訪者など誰もが寺町の魅力を感じれるまちづくりに展開・発展させていきたいと考えています。
今年の2月に行ったワークショップ『地区の問題・課題を考えましょう。』につづき、第二段として寺町の魅力探しや、よい点や改善点を現地で確認したいと考えます。今回は、昨年まちづくりの講演をいただいた志村先生に取りまとめ役をお願いしております。寺町を活かしたまちづくりを進めていくために開催するものです。ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。

■ 時間
**平成23年 7月24日(日)
PM2:30開催**

■ 会場
日朝寺(相生町7-109)集合

■ マネジメント
志村直愛氏
東北芸術工科大学 デザイン工学部准教授

■ お問い合わせ先
米沢市役所 建設部都市計画課 景観係 担当 野村、須藤
TEL 22-5111 FAX 22-0498 E-mail: tokei-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

[図表2] 協議会から住民へ配布されたワークショップ案内。

- ・地域のまちづくりについては、主に地域を形成する寺院の声が強く、さらに寺と檀家の立場も様々ある。一方で地域住民とこれをまとめる町内会もあり、様々な立場でのまちづくりへの考えがあり、その共有が第一歩のスタート地点となる。また、そもそも地域の景観をよくするという課題についてのまちづくり意識を持つことが基本条件である。

3) 地域住民、寺院との地域コミュニティの活性化

・寺院や檀家が懸念する、近年の地域コミュニティの希薄化をこうした機会を通じて強化し、いにしえの地域の賑わいを取り戻すきっかけにしていくことが求められている。

4) 協議会としての活動方針、地区の整備方針の策定、共有

- ・この課題検討を通じて、今後市の支援がなくても協議会が積極的にまちづくりをリードしていくべく、協議会自体の連携や体力強化を図って行くことが重要である。

以上の4点が重点的な目的と考えられ、それぞれの課題を満たして行く機会をワークショップの成果として演出していくことが求められる。併せて平成24年度にこの地で開催予定の全国寺町サミット開催に向けての準備を検討することも協議会の目標の一つとなっている。

米沢寺町を訪かしたまちづくり協議会 第1回 ワークショップ「米沢寺町いいとこさがし 2011」

『いいところ & もんだい点 の定義』

～寺町にはいったいどんな景観、まちづくりの「種」となる風景があるか？～

まちを歩いて見て、
景観（景色、風景として）、まちづくりの工夫、成果として

● 『いいところ』… とは 例えば…

よいなとおもうところ
美しいと思うところ
優れた工夫、うまくできているなと思うところ
活き活きとした生活感がでている、楽しいところ
たくさんあるといい、もっと増えるといいなと思うところ
この町ならではの特徴を示すところ
思い出がつまっているところ
観光の対象にならうなところ
まちの誇りになると思われるところ

● 『もんだい点』… とは 例えば…

あまり好ましくないと思うところ
美しくない、見苦しいと感じるところ
生活する上で不便なところ
生活する上で危険なところ
居心地のよくないところ
観光客には見せたくないところ
直した方がよいところ
できればない方がよいと思う悪いところ
変えた方がよいと思うところ

[図表3] 第1回解説用シート。毎回気づきを促す定義の解説に努めた。

4. ワークショップの経過と成果、結果分析

上記目的をにらみつつ、以下の通り4回のワークショップを企画した。

○第1回:「米沢寺町まちを歩こう…いいとこさがし」

- ・寺町地区の現状の魅力と問題点の現地踏査による検証

○第2回：「米沢寺町まちづくり手法さがし…こうしたい&こうすればいい」

・寺町地区のまちづくり手法、アイディアの共同検討

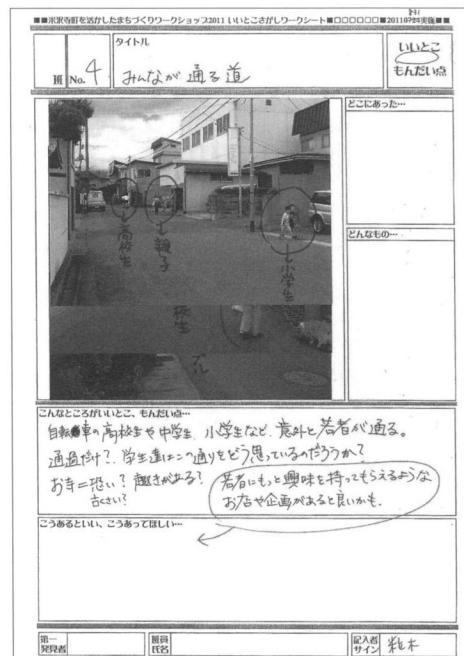
- 第3回:「米沢寺町まちづくりの役割分担2011」
 - ・寺町地区のまちづくりの登場人物、担い手の可能性チェック、検討作業

○第4回:「米沢寺町まちづくりの優先順位2011」

- ・寺町地区での今後のまちづくり優先順位の検討と番付検証作業

それぞれが段階的なストーリーを組みつつ次第に目標達成を果たして行きながら、各回にテーマを掲げて読み切り形のワークショップとし、途中参加や欠席の場合のモチベーション確保に努めた。

開催は概ね月に1回のペースとし、概ね2~3時間。初回は現地踏査のため休日日中開催、2回目以後は平日夜の



[図表4] 第1回記入シート。現地踏査の結果全てを書き込めるシートを用意した。

開催とした。会場は寺町地域内にある日朝寺の庫裡内座敷をベースとした。ワークショップ企画内容検討および準備作業は本学志村研究室で行ない、現地でのワークショップでは、進行、グループワークの補佐、記録など一切を研究室が担い、研究室所属及び有志学生が行なった。毎回の呼びかけは協議会から地域に対して行ない、参加対象は、寺院檀家及び町内会を通じて周辺住民と広く設定した。成果については、協議会だより「イー・てらまち」[図表22]により協議会を通じて町内会エリアに配布、報告することとした。発行事務等は米沢市都市計画課景観係が担当した。

各回のワークショップの段階的ねらいと手法は以下の通りである。

◎第1回：2011年7月24日(日)実施

- お題：「米沢寺町まちを歩こう…いいとこさがし」
- 概要：寺町地区の現状の魅力と問題点の現地踏査による検証作業 [図表3]
- 実績：参加者約45名、7班に分かれて現地踏査、記録、話し合い
- 内容：地域住民と学生を組み合わせた4～6人の班を組成し、地区内を位置把握用の地図、記録用カメラ、記事記録用シート束をもって歩く。途中地区内で気付いたよい



[図表5] 第1回成果分布地図。ポイント発見位置を班別にプロットする。

点、わるい点を見つけ、写真撮影の上、シートに内容を記録 [図表4]、地図上に場所を落とす [図表5]という作業を1時間強実施するもの。

○ねらい：前回集まっていたいなかった地区内の魅力の発掘と、改めて問題点を地図上に落とす作業を行なう。実施に際し、重複作業感をなくすため、新規で市外在住者である学生を同行させ、地域に教えてもらう形式を採った。併せて撮影、記録は全て学生が担当し、地域住民には気づきの指摘を優先してもらうこととした。[図表6]

○成果：真夏の炎天下とあって厳しい気象状況の中、時間的制約から外部作業は予定より短い1時間が限界という中で、各班平均15枚を越える記録を集め、最終的には重複整理後の総計で120シートの指摘が集められた。会場では暫定的に完成していた計75シートのいいところ、問題点の班別件数を挙げてもらい、併せて各班のベスト、ワーストポイントを発表してもらった[図表7]。

○結果分析：まちの魅力と問題点を探す町歩きの成果120シートの内訳は、重複分を除き、二択の「いいとこ」(地域の魅力)が54カ所、「問題点」(地域の課題)が48カ所と二分した。内容としては「魅力」では、植物などの自然や寺町らしい風景、看板設置などが多く、「問題点」では、目立つもの、浮いて見えるもの、圧迫感や閑散とした雰囲気などを挙げる意見が多かった。一方、想定外にこの両方に当て



[図表6] 第1回現地踏査の様子。地域住民と学生が同数の班に分かれて取材。

米沢市寺町を活かしたまちづくりワークショップ第1回 結果まとめ					
結果	いいとこ	大小	もんかい点	ベスト オブ いいとこ	ワースト オブ もんかい点
1班	4件	>	2件	茂林寺の中庭、涼しげ	道端沿いの電線の眺め、せっかくの寺町なのに残念
2班	4件	<	6件	現代から寺への時代のグラデーションが美しい	看板場の看板など、美しさがあるのに高さの問題感がなく嬉しい
3班	3件	>	2件	極楽寺等の里、あいさー等の植物があり外から入りやすい沿道	建物が少なく、ひと気が少なく閑散としている
4班	7件	<	12件	真福寺さんの山門が立派	通り全株にブロック壁が多い、板塀に統一さればよじに
5班	4件	=	4件	福寿院さんの看板、土地の古跡が書かれた	住民さんの隣地に小学校の石碑があるが、せっかくの歴史解説が目立たない
6班	8件	>	3件	一般家庭の看板、武者宮殿の隣間があり、圧迫感を感じさせず、庭も見える	お墓の脇、石碑などの二重クリートで囲めているので圧迫感あり
7班	11件	>	7件	観光目線で駐車、日朝寺の入り口、散歩したくなる雰囲気	車、店のシャッターが自立、人を寄せ付けないしさしさがある
合計	39件	>	36件		

[図表7] 各班のいいとこ、問題点を暫定集計した結果の提示リスト。

はまらない「惜しい」という指摘が6カ所あった。魅力的な境内があるが見られない、寺町らしい辯だが新築で派手、といった「よいものだが残念」に思えるどちらでもない回答が発生している。これは被験者が自ら編み出した名答であり、善悪を二択でしか想定できなかった企画側への有意義な一石といえよう[図表8]。

◎第2回：2011年8月31日(水)実施

○お題：「米沢寺町まちづくり手法さがし…こうしたい&こうすればいい」

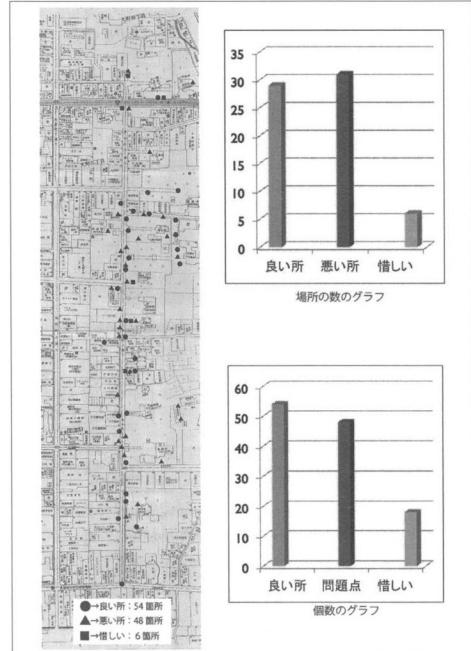
○概要：寺町地区のまちづくり手法、アイディアの共同検討作業

○実績：参加者約35名、8班に分かれてシートを元に話し合い、提案する[図表9]。

○内容：第1回目で採集された、地区内の魅力や問題点を整理した120枚のシートを各班に15枚づつ配分し、それぞれの魅力や問題点を「どうしたいか」「どうすべきか」について意見を提示させる[図表10]。

○ねらい：集めたまちの魅力を高め、問題を解決する方法を、写真と意見を見ながら住民自身が考える機会を目指した。前回の成果を故意に他班へ送り、改めて感想などを書き加え、参加者の共有に努めた。

○成果：初の夜開催、デスクワークとなるが、多くの地域



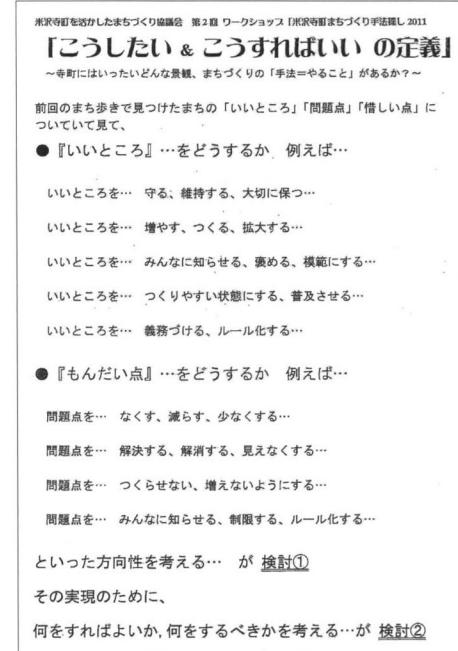
[図表8] 第1回のいいところ、問題点、惜しい点の分布図と件数グラフ。

の皆さんのが参加された。初参加の方にもわかるよう、1回目成果の地域の魅力、問題点のシートは完成させておき、それに思う理想の将来像を自由に発言していただいた。各シートにつき、複数の回答、提案が集まることとなり、120シートに計425件もの意見が出された。

○結果分析：120枚のシートの一つ一つに、まちづくりに向けての希望、対策アイディアを425件見出すことになるとは、正直想定外の結果であった。写真を見ながらでも地元は現地の状況をしっかりと把握しており、的確な分析や情報提供、またあるべき姿についての声も十二分に提供していただいた。総じて自然の活かし方や、寺町としての景観のあり方、また情報提供としての看板、案内の設置などが共通の提案として多かったが、中には見た目と機能が合致しない側溝や駐車場、新築建物の意匠などで意見が二分する例も少なくなかった。また周囲の手入れやマナーなど自律的な指摘がある中で、行政への要望的な声も見られた。限られた時間の中でもこれだけの意見が出る以上、今後はそれを広く地域で共有し、意見交換をしながら精査することができれば、更に実現可能な提案へと昇華できるのではないかと考える。

◎第3回：2011年10月5日(水)実施

○お題：「米沢寺町まちづくりの役割分担2011」



[図表9] 第2回解説用シート、まちづくりアイディアを促す解説を試みた。

○概要：寺町地区のまちづくりの登場人物、担い手の可能性チェック、検討作業

○実績：参加者約30名、13班に分かれてシートを元に話し合い、提案[図表11]

○ 内容：第2回で集められ、整理された90シートをベースに、それぞれのまちづくりの課題で「やりたいこと」「やるべきこと」を誰がやるかについて、検証提言し、登場人物を「地域（寺・住職・檀家・本協議会・近隣住民・自治会・その他）、地元（町域外市民、町域外商店主、地元企業、地元マスコミ、その他）、役所（市役所・県庁・国）、議員（市議会議員・県議会議員・国会議員）、学生（芸工大生・山大工学部生・県外大学生）、他所者（市外在住県民・県内観光客・東北人・東京人・外国人）、専門家（学者・専門家・郷土史家）、年代別（高齢者・子育て世代・学生・こども）、性別（男性・女性）の一覧表から選択チェック、具体的な役割が意見としてある場合は文章付記する準備をしておいた[図表12]。

○ねらい：まちづくりとしてやりたいこと、やるべきことは多く挙っても、他人任せな気持ちが根強いことは課題となる。ここで、多くの登場人物を一覧表で示しながら役割を分担させ、多くの人々の協働作業でこそまちづくりが進められる認識を共有し、さらには自分自身の立場の役割が数多くあることも無理なく意識してもらえるよう心掛けた。

○成果：圧倒的情報量の提言を見据えながら意見出しを行なうため、班内人数を逆に抑え、対話を重視してテンポよく意見を集めていく手法を探った。結果意外にも全てのシートに目が届くこととなり、限られた時間の中で、全提案に対し、関係すべき人物の選択と少しづつでも各人物のやるべきことを文章で列挙することができた。

○結果分析：90シートものまちづくり提案に対しての役割分担をわずか1時間強で抽出するには限界があるものの、概ね全ての項目に即して役割分担の検討ができた。これによれば、やるべきことの項目数順に並べると「地域」では、寺が9、住職が6、自治会3、檀家、近隣住民、土地建物所有管理者が各2、本協議会、歴史に関心のある方、婦人会が各1票と、寺院住職の役割が大きくクローズアップされていた。地元では、地元企業3、町域外市民、商店主、地元マスコミ、JR東日本が各2票と、平等に役割が分担された感がある。役所では、市役所7、県庁2、国1と、やはり地元市役所への依存度が高い。しかし、内容的には必ずしも財政支援ばかりでなく、管理、相談、PRなどソフトな役割への期待も大きい。その他、議員へは国県市議会にそれぞれ2票、学生へは芸工大生、山大工学部生、県外大生へ各1票、余所者には、市外在住県民に3票、東北人に2票、専門家には各分野の専門職、郷土史家に2票が集まつた。世代別への期待は、実に子ども会を含めた子どもに5

[図表10] 第2回記入シート。魅力と問題からアイディアを考察するための用紙。

米沢市町を活かしたまちづくり協議会 第3回 ワークショッピング

2011.10.05

「米沢市町まちづくりの役割分担2011」

~寺町を素敵なものにするために、誰がどんな役割を担うべきか、徹底究竟!~

●目的

- ・このワークショップは、よりよい寺町のまちづくり、景観づくりを進めて行くための第三歩として、境内で今後進むべきまちづくりの登壇人物と、その役割を考えるための企画です。
- ・目的は、初回に地域内を見て歩きながら見つけた寺町の「いいところ」「問題点」をベースに、前回回答した、いいところを整理し、問題点を解決するための「方法」に対しても、それを進めるにあたって、どんな人が、どんな役割を担はばよいかについて徹底的に考えてみたいと思います。

●方法

- ・まず、地元と学生を混成した数名のグループに分かれさせていただき、以下の手順で話し合いを進めて行きます。

1: 前回各グループ毎に検討していただいた、「いいところ問題点検証シート」を、一枚づつ振り返ります。

2: 「タイトル」と「写真」、その下の「こんなところでどう思う意見」を参考に、地域内でのいいところ、問題点再確認ください。

3: 前回検討した、まちづくりの手法が、下半分に書かれています。「今後こうなるよい」「こうすればよい、こうしたい」の意見に数字が書かれていますが、それぞれの手法を実現するにあたり、どんな人が、どんな役割を果たせばよいかを考えてみてください。

4: まちづくりの扱い手「誰」が「どんな役割」については、別紙まちづくり登壇人物シートに学生が記入します。

内容は、「誰が」「具体的には誰か」「こんな役割を果たして欲しい」の3つです。

・より多くの人が、この寺町のまちづくりに関われるよう、あらゆる立場、ケースを想定していただければと思います。

・学生が必死に書ききますので、ゆっくりお伝えいただければありがたいです。

本日もよろしくお願いいたします。

[図表11] 第3回次第。毎回開始時に段取りをわかりやすく解説して始める。

票、学生、子育て世代に3票が集まり、若い世代への期待をにじませた。やはり寺町のまちづくり故に、寺や住職への期待が大きいものの、支える世代として子どもや若者への期待がかかる点も課題と受け止められる[図表13]。

◎第4回：2011年11月30日(水)実施

○お題：「米沢寺町まちづくりの優先順位2011」

○概要：寺町地区での今後のまちづくりを進める上での優先順位の検討と、番付検証[図表14]

○実績：参加者約30名、8班に分かれてシートを元に話し合い、投票。

○内容：第2回で集められ、整理された90シートの169件の「まちづくりアイディア」に対して、要する時間とやるべき重要度(優先度)についてそれぞれ5段階づつの評価を加えて行く作業を行なった[図表15、16]。

○ねらい：まちづくりのアイディアは予想以上に数多く挙げられたが、具体的にできることは限られる。その検討、決定プロセスの入口として、各アイディアにかかる時間の想定と各自の価値観でも優先順位を設定して、序列化を試みる体験をしていただいた。ここで共有された高い優先順位の取り組みは、今後協議会での重点課題として実際のまちづくりへと繋げて行く意識もできよう。

○成果：各班を少人数構成として、全てのアイディアに対して均等な検討人数を当てることで、斑なく優先順位を並べることができ、アイディアに序列を付けることができた。また、おぼろげながらもそれぞれの立場からかかる時間を検証でき、まちづくりが必ずしも短期間で叶う物ではなく長い目で見た視点も重要であることを認識することができたかと考える。優先度については5段階別のポイントで計算を行ない、具体策を列举して共有することもできた。[図表-17、18]

○結果分析：169項目を、まちづくりに要する時間で5段階(すぐに、短期1年、中期3年、長期10年、永遠に)に、優先度として5段階(絶対、できるだけ、できれば、どちらでも、無理)に区分評価してもらった。得票をポイント集計し、3ポイント以上を集めたまちづくりのアイディア数は、時間評価では、すぐに=30項目、短期=7項目、中期=37項目、長期=12項目を数え、すぐにできることと、ややじっくりと3年スケールで考えるべきことが集中した。この極端な分布は逆にいえば、まちづくりが進めやすい段階特性を示しており、リアルな今後の取り組みを支える原点になりそうである。優先度の高得点なものを挙げると、絶対必要な上位には、寺の案内看板の設置、配布地図パンフの作成といった観光支援や、傷んだ看板、シャッターの整備などが挙げられている。

シートNo.5-9 まちづくり登場人物		役割分担内訳
地域		チェック(詳しい立場・特定人物名)(役割分担内訳)
○寺 (駅前〇〇寺)	[ががた 薬局や 遊歩道を整備ほしい]	
○住職	[]	
○駅前さん ()	[]	
○この街議会 ()	[各寺院の意見をまとめて町へ発信]	
○在籍住民 ()	[]	
○所有者 ()	[]	
○地域の高齢者 ()	[花壇に花を植えたい]	
地元		
○町域外米沢市民 ()	[]	
○町域外商店 ()	[]	
○駅周辺企業 ()	[設置の準備を 提供]	
○JR東日本 ()	[お車にいいから 墓内へ訪れる]	
○()	[]	
役所		
○市役所 (市政課)	[駅PRをもっと]	
○連絡 ()	[]	
○議 ()	[]	
○議員 ()	[]	
議員		
○市議会議員 ()	[]	
○県議会議員 ()	[]	
○国会議員 ()	[]	
学生		
○専門工科大生 (がんごくの学生)	[かこいい 設立のデギンを 研究]	
○山大生(学部生) ()	[]	
○県外大学生 ()	[]	
専門家		
○専門者 (木造建築のスペシャリスト)	[構造上のアドバイスを]	
○専門家 ()	[]	
○郷土史家 ()	[]	
他所者		
○県外在住住民 ()	[]	
○県外観光客 ()	[さらに多くの人に 見てもらいたい]	
○東北人 ()	[]	
○東京人 ()	[]	
○外国人 ()	[]	
○()	[]	
世代別		
○高齢者 ()	[]	
○子育て世代 ()	[]	
○学生 (小学生)	[整理と寺町を 昼間にしてほしい]	
○子ども (未就学児)	[おひがいに見てほしい]	
○()	[]	
類型		
○男性(女性)特に壁女 ()	[壁好きの人々に見たいはほしい]	
○駅看板/看板 ()	[]	
○()	[]	

[図表12] まちづくりの担い手を登場人物として列挙する手法。記入見本を配った。

●第3回ワークショップ成果 まちづくり登場人物と役割分担	
地域	寺
○寺全体	> 寺全体で寺に合わせた草木でレイアウト、出来れば各寺のシンボルになる木や花を決め、植栽し管理する。その際、地域市民全體が植栽や管理の協力を仰ぎ、役所に植栽に掛かる費用の援助を申請する。また、「花いっぱい運動」などイベントを持ち上げ、協力層を広げることで、豊ある緑が豊かな寺町の景観をつくる。
○寺と寺町の歴史を知ることの出来る看板やパンフレットをつくり、設置する。その中に記載する内容、案内、イベントなどを考える。	
○協議会の話し合いでいる場に参加し、寺としての役割の協力を仰いだり、問題や意見を出し、相談する。	
○寺町らしい景観の維持、管理をする。	
○寺は他の共有地という認識を深め、お茶で来訪者を持て成したり、寺町の話をしたり、気軽に訪ねて交流出来る場にする。	
○寺の敷地や所有している土地の、イベントや講演、フリーマーケットなどの使用を許可する。	
○灯篭に火または電気を入れてもらい、幻想的な寺の雰囲気をつくる。	
○寺の看板、ブロック壁をやめて、風情のある素材をしようとした看、例えば木造や漆喰、黒漆などをつくる。その際、町全体の統一性を考えて、地域一体で話し合う。	
○協議会の話し合いでいる場に参加し、問題や意見を出し、相談する。	
住職	
○寺全体	> 寺全体で寺に合わせた草木でレイアウト、出来れば各寺のシンボルになる木や花を決め、植栽し管理する。その際、地域市民全體が植栽や管理の協力を仰ぎ、役所に植栽に掛かる費用の援助を申請する。また、「花いっぱい運動」などイベントを持ち上げ、協力層を広げることで、豊ある緑が豊かな寺町の景観をつくる。
○住職さんと駅前さん同士で、現在の寺町の問題や今後の寺町について話し合い、情報提供する機会を増やす。	
○寺と寺町の歴史を知ることの出来る看板やパンフレットをつくり、設置する。その中に記載する内容、案内、イベントなどを考える。	
○寺は他の共有地という認識を深め、お茶で来訪者を持て成したり、寺町の話をしたり、気軽に訪ねて交流出来る場にする。駅前さんと協力して持て成す。	

[図表13] 担い手別役割分担のリスト。より多くの人々がまちづくりに関わる必要性を示す。

これらを総合的に判断すれば、今後のまちづくりにおいて、すぐにできて優先度の高いものは早急に対応すべきであり、時間がかかるものについては、協議会から地元住民、若い世代と経過時間に併せて委ねる先を変えて行くなどの工夫で投げかけるヒントになるのではないかと考える。

米沢寺町を活かしたまちづくり協議会 第4回 ワークショップ

【米沢寺町まちづくりの優先順位 2011】

～寺町を素敵なものにするために、何をどんな順序で進めるか、徹底究明！～

●目的

△このワークショップは、よりよい寺町のまちづくり、景観づくりを進めて行くための第四歩として、地域内で今後進めるべきまちづくりの「方法」の「優先順位」を考えるための会議です。

△これまで、

- 1 回目は地域内を見て歩きながら寺町の「いいところ」「問題点」を見つける。
- 2 回目=いいところを増やすし、問題点を解決するための「方法」探し出す。
- 3 回目=その「方法」を実施するのは誰か、役割分担を考える。
- と進めてきました。

4回目の今日は、2回目に探し出した「まちづくりの方法」の優先順位を究明し、今後のまちづくりの進め方を考える素材にしていく取り組みです。

●方法

△まず、地元のみなさんと学生を混成した数名のグループに分かれさせていただき、以下の手順で話し合いを進めて行きます。

1. グループ毎にテーブルに置かれた「まちづくりアイディア」の一覧表を御覧ください。ここには、左側に2回目に検討された「まちづくりの方法」を整理集約した169種類のアイディアが並んでいます。
 2. これをおから順に一つ一つ確認しながら、それぞれ
- A 説問1=どのくらいの時間かけて取組むべきアイディアか？
B 説問2=寺町でのそのアイディアの優先度の高さはどうか？
- について、意見交換の上、一つを選び、それぞれ該当する欄に○を入れてください。なお、意見が割れたり、追加の話題が出た時などは自由意見欄に記入ください。

以上の作業を、シート束すべての内容169案について検討ください。

【図表14】第4回次第。回数を重ねる毎に実は難易度を少しづつ高めるよう努めた。

米沢寺町を活かしたまちづくり協議会 第4回ワークショップ【米沢寺町まちづくりの優先順位 2011】

【要する時間 & 優先度 の定義一覧】

～寺町を素敵なものにするために、何をどんな順序で進めるか、徹底究明！～

第2回目で抽出された169のまちづくりアイディアを、以下の視点で順位づけてください。

●設問1：どのアイティアに要する時間はどうか？

欄は左程「短い時間」で、右へ行く程「長い時間」をかけるべき取り組みです。

△左から順に

- 1: 短=すぐ～今直ぐに取組み始めることができ、短時間で実現可能なもの
- 2: 短=短期…比較的短い期間、1年程度で実現可能なものの
- 3: 中=中期…短期よりは長い期間、3年程度で実現可能なものの
- 4: 長=長期…中期よりさらに長い期間、10年以内程度かかりそうなもの
- 5: 永=永遠…10年以上の長い年月をかけて考えて行くべきもの

●設問2：どのアイティアの優先度はどうか？

欄は左程優先度が「高く」、右へ行く程「低く」なる取り組みです。

△左から順に

- 1: 1=絶対…これはこの町にとって絶対やらなければならない最高優先課題
- 2: 2=できるだけ…これはできる限りやるべき、優先順位の高い課題
- 3: 3=できれば…これはできればやっておくべき普通の優先度の課題
- 4: 4=どちらでも…やってもやらないでもどちらでもよい優先度の低い課題
- 5: 無=無理…そもそもこれは実現できない程難しい課題

以上のような基準に沿って、それぞれのまちづくりアイディアを各班みなさん合同で評議してみてください。

【図表15】第4回解説用シート。まちづくりへの時間意識と序列化を考察する機会。



【図16】第4回の会場の様子。学生との意気投合も徐々に高まって行った。

第4回計画実施したまちづくり協議会 第4回 ワークショップ わが□ 箱のベストなまちづくり方法!									
① すでに始まっているまちづくり方法は?									
「田」=すでにランクは [22] 箱									
そのうち、特にみなさんの思いの強かったものベスト5は? □□□□□									
② 寺町で優先度が高いと思われるまちづくり方法は? 「1」=最初一ランクは [23] 箱									
そのうち、特にみなさんの思いの強かったものベスト5は? □□□□□									

【図17】第4回班別メモ。時折、班別の成果を出し合って競うシーンも作った。

寺町のまちづくり優先順位を考える X 班										◎ ← 要する時間 → ◎ ◎ ← 優先度 → ◎ ◎	記入者名: 今村さん
No.	まちづくりアイディアの内容	でぐる時間	中期	長期	必ずやる	でぐる時間	中期	长期	必ずやる	自由記入欄	記入者名
1	線の少ない門前に木を植える 门づつがない	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
2	参道のベンチを置いて季節の植物を楽しむ	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
3	寺町の門を改修して門の外側に木を植える	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
4	移動式のガラス窓で寺町の植物を楽しむ	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
5	寺町は美しいです (やさしく)	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
6	寺町は美しいといづれ紹介するハーベスマップをつくる	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
7	門前や道路や壁面がわかる看板を置く	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
8	寺町の歴史がわかるパンフレットをつくる	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
9	寺町のパンフレットは一方的に眺めで見る	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
10	/パンフレットは一方的に眺めで見る	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
11	寺町をよく見て、寺町の植物を教えて読んでもらう	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
12	寺町をよく見て、寺町の植物を教えて読んでもらう	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
13	寺町が多くの植物を育てるアートにする	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
14	寺町が多くの植物を育てるアートにする	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
15	寺町が多くの植物を育てるアートにする	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
16	電線柱にゴミ箱を付けて風情を損ねない	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
17	見慣れた樹木に古びて風情を損ねない	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
18	寺町の樹木が古くなると風情を損ねない	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
19	寺町の樹木が古くなると風情を損ねない	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
20	市から老朽化した木を出してくれる、他の室内人としても使う	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
21	学生が寺町の木を育てる活動をしてもらおう、地元を説いてもらおう	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
22	生け垣を整備を実現にやす	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
23	生け垣のゴミを植えて食用地に供する	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
24	移動式のベンチで寺町の緑を楽しむ	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
25	田代スマーカーの花壇を寺町の生け垣に植える	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
26	田代スマーカーの花壇を寺町の生け垣に植える	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△
27	田代スマーカーの花壇を寺町の生け垣に植える	短	中	長	△	1	2	3	△	△	△

1ページ

【図表18】第4回集計シート。この頃にはこれだけ難易度の高い検討も学生との連携で巧みにこなしていくことができた。

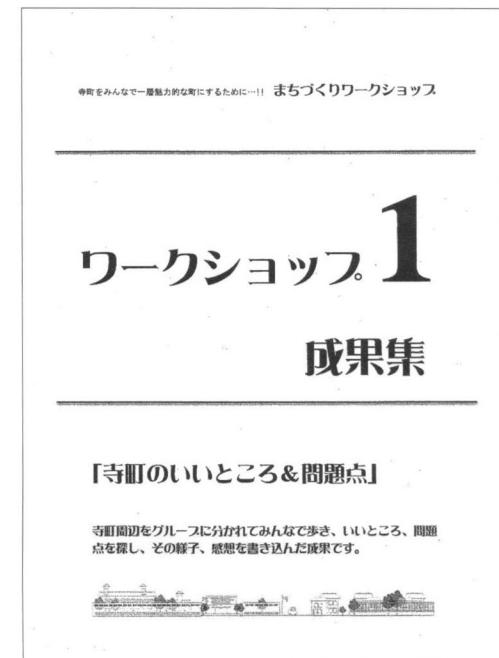
寺町をみんなで一層魅力的な町にするために…!!									
まちづくりワークショップ報告会									
寺町を活かしたまちづくり協議会									
2012年2月19日(日) 15:00~17:00 日朝寺									
次 第									
01. 開会									
02. 会員挨拶									
03. 前口上～これまでのワークショップの意味するもの									
04. 報告1回目ワークショップのまとめ									
05. 報告2回目ワークショップのまとめ									
06. 報告3回目ワークショップのまとめ									
07. 報告4回目ワークショップのまとめ									
08. 質疑応答									
09. これからどうまちづくりを進めて行くか（話し合いの場）									
10. まちづくりの明日（総括）									
11.閉会									

【図表19】報告会次第。初めての参加者に備え、全回の概要と成果の解説を実施。

5. ワークショップ報告会の実施と評価

以上のように、今回のワークショップでは、短時間で非常に高密度な意見交換と成果の収集を図ることができたが、毎回2時間前後の配分では、成果は収集できても結果を共有するには到底時間が足りず、毎回地元住民のみなさんには意見出しで終わる印象が否めなかった。これをカバーすべく、臨時に5回目のワークショップとして、2012年2月19日(日)午後にまちづくりワークショップ報告会を実施し[図表19]、これまでの経過報告と成果のまとめ、成果資料の配布を行なうこととした。これは、研究室で取りまとめた集計結果のわかりやすい報告と共に、常時出席していただいた以外のより多くの地域住民の皆様への課題情報共有、啓発にも役立つと考えたためである[図表20, 21]。

出席者は地域のイベントなどが重なり30名弱であったが、新たな出席者も居られ、改めてまちづくり検討の成果を広める機会となった。なお、この報告会については、実施当日取材が入り、山形新聞、米沢新聞に記事が掲載されている[図22, 23]。報告会後の参加者アンケートによれば、スライドなどを通じて具体的な魅力や課題が見えた、役割分担での連携の大切さ、今後やるべきことについての意識が高まった、といった好評価記述が多く、またきめ細かい分析やプレゼンテーションへの高い評価も頂いた。地域に対するワークショップとしては一定の成果を挙げたものと考えて良いと思う。一方で、まだ参加者は地域住民の一部であることも事実であり、また各ワークショップで得られた膨大な成果は、分厚い報告資料集としてこの報告会で配布、解説をしてもなお、地域へ十分に伝え切れてないというジレンマを感じるところもある。今後、協議会を中心にいかにまちづくりの議論、実践の輪を拡げて行くことができるかが、米沢寺町における理想の景観まちづくり実現に向けての大きな鍵であること、長きに渡る共同作業を通じて、地元、行政、そして今回企画主体となった志村自身と研究室の学生メンバーの誰もが実感するところとなった。



[図表20] 成果集表紙。4回分のワークショップ成果の抜粋データを全員に配布した。



[図表21] 報告会はスライドを使い、研究室の3年生が分担して報告する形式を探った。



[図表22] 協議会が毎回検討結果を地域に還元すべく発行した情報紙「イー・てらまち」



[図表23] 報告会の様子を伝える山形新聞記事。具体的なアイディアについても言及。



[図表24] 地元米沢新聞の報告会記事。取り組みの全貌を詳しく解説している。

6.まとめ

地域の景観まちづくりを進める手法として完成されたマニュアルはないといってよい。それは、その土地ならではの景観特性や住民意識、行政の取り組み姿勢などにより個々に状況が異なるからに他ならない。今回は、寺町という寺院が集中する地域にあって、宗教的な結束力の強さから、寺院、檀家等のまちづくり意識が極めて高い地域故に、短期で意欲的な検討が実現でき、また我々市外の大学の研究室をも寛大に受け入れていただき、教員学生共にありがたくも貴重なフィールド体験を積むことができた。一方で、地域の一般住民の声の汲み上げや、結果のフィードバックもまだまだ十分とはいきれない側面もあり、さらに充実した景観まちづくりの前進のためには、地域、行政、研究機関が継続的に連携しながらの有効な取り組み検討と、そのための十分な支援が必要であると考えられる。

[追記]

本事業、米沢寺町ワークショップの取り組みに参加協力した学生は以下の26名である。

(一覧中、○◎は志村研究室所属学生、◎は最終報告会企画運営担当学生、学年は実施当時)

東北芸術工科大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科:

○小笠原あゆみ、○森菜津子、○小林潤一朗、○西川健祐、鷲尾愛(以上4年生)、○三浦晶恵、○今井雪愛、○白岩さゆり、○藤井春那、○橋本かおり、小野寺涼(以上3年生)、齋藤遙、水野愛梨、熊谷悠子(以上2年生)、畠山拓巳、小田島萌、菅原かずさ、依田聰太、中野翔太、菊池優実江、山口裕也(以上1年生)、井形充(院1年生)、○粒木友香里、○滝口恵理、(以上OG)、同大美術科 足立佐和子(1年生)

京都造形芸術大学: 中井茉由子(OG)

[執筆者]

志村 直愛

Naoyoshi SHIMURA

デザイン工学部 建築・環境デザイン学科

Department of Environmental Design, School of Design
教授

Professor